

横須賀美術館美術品評価委員会開催結果について

1 美術品評価委員会とは

横須賀美術館において、取得しようとする美術品の価格及び質について評価し、適正な美術品の収集を行うため、横須賀美術館美術品評価委員会条例に基づき設置している。

2 平成 28 年度の会議開催結果

- (1) 開催日 平成 29 年 3 月 13 日 (月)
- (2) 場 所 横須賀美術館会議室ほか
- (3) 評価内容 寄贈候補作品の芥川 (間所) 紗織作「神話より 4」
ほか 32 点および資料一式の計 34 点の評価
- (4) 評価結果 寄贈候補作品および資料の計 34 点について取得が適当であり、総評価額を 23,300,000 円とする評価をいただいた。

3 寄贈作品の活用等

美術館の所蔵作品として受け入れ、所蔵品展等において、適宜展示等に活用していく。なお、受入時の状態が展示に適さない作品については、必要に応じて、作品の修復・額装等を行い活用していく。

4 委員名簿

	氏 名	所 属 等
委 員 長	こいずみ じゅんいち 小泉 淳一	茨城県近代美術館 美術課長
委 員	しんばた やすひで 新畑 泰秀	石橋財団ブリヂストン美術館 学芸課長
委 員	みずさわ つとむ 水沢 勉	神奈川県立近代美術館 館長
委 員	もとえ くにお 本江 邦夫	多摩美術大学教授
委 員	やまなし えみこ 山梨 絵美子	東京文化財研究所 副所長

平成 28 年度 評価結果一覧

No.	分類	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	評価額 (円)
1	工芸	芥川 (間所) 紗織	神話より 4	1956(昭和 31)	130.3×162.0	5,500,000
2	油彩	芥川 (間所) 紗織	スフィンクス	1964(昭和 39)	130.3×162.0	3,500,000
3	油彩	川田祐子	memory of sands	2005(平成 17)	91.0×116.7	1,000,000
4	油彩	川田祐子	内なる自然	2010(平成 22)	117.0×97.0	800,000
5	油彩	川田祐子	氷の誓い	2013(平成 25)	72.7×91.0	500,000
6	油彩	川端実	門のイメージ 金	1991(平成 3)	167.6×213.4	6,000,000
7	油彩	高間惣七	二羽の鳥	1974(昭和 49)	53.0×45.5	800,000
8	油彩	矢崎千代二	[シンガポール風景]	1926(大正 15)	56.0×74.5	1,000,000
9	油彩	若林砂絵子	Untitled [Works7]	2002-2004 (平成 14-16)	197.0×197.0	500,000
10	油彩	若林砂絵子	Untitled [Works13]	2008 (平成 20)	195.0×115.0	500,000
11	版画	磯見輝夫	気圏のまつり	1991(平成 3)	180.0×285.0	1,000,000
12	版画	磯見輝夫	砂のかたち その人は 此処を通りましたか	2006(平成 18)	160.0×240.0	1,000,000
13	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	39.0×57.5	50,000
14	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	56.4×38.0	50,000
15	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	57.0×38.9	50,000
16	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	66.0×50.5	50,000
17	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	65.5×50.0	50,000
18	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	66.0×50.0	50,000
19	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	78.0×56.7	50,000
20	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	78.0×56.8	50,000
21	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	78.0×57.0	50,000
22	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	78.2×57.0	50,000
23	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	56.5×38.0	50,000
24	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	57.0×39.5	50,000
25	版画	若林砂絵子	Untitled	2005-2008 (平成 17-20)	57.0×38.0	50,000

No.	分類	作家名	作品名	制作年	寸法 (cm)	評価額 (円)
26	版画	若林砂絵子	Untitled	2005－2008 (平成 17－20)	57.0×39.5	50,000
27	版画	若林砂絵子	Untitled	2005－2008 (平成 17－20)	57.0×39.0	50,000
28	版画	若林砂絵子	Untitled	2005－2008 (平成 17－20)	56.0×38.0	50,000
29	版画	若林砂絵子	Untitled	2005－2008 (平成 17－20)	56.5×38.5	50,000
30	版画	若林砂絵子	Untitled	2005－2008 (平成 17－20)	56.5×38.0	50,000
31	版画	若林砂絵子	Untitled	2005－2008 (平成 17－20)	65.5×50.0	50,000
32	版画	若林砂絵子	Untitled	2005－2008 (平成 17－20)	66.0×50.5	50,000
33	素描	伊東深水	祇王寺の秋 下絵	1960 (昭和 35)	37.5×28.5	200,000
34	資料	芥川 (間所) 紗織	スケッチブック			

* 作品名中、[] で示したものは、正確な名称が不明のため、現時点で仮の名称。

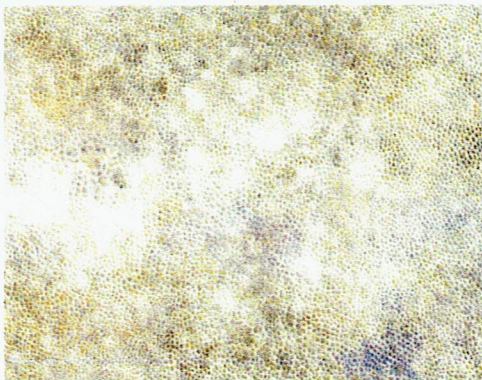
平成 28 年度 主要寄贈作品紹介



No. 1 神話より 4

芥川（間所）紗織 1924（大正 13）～1966（昭和 41）
愛知県に生まれる。東京音楽学校で声楽を学ぶ。
1948（昭和 23）年作曲家の芥川也寸志と結婚、染色や
油彩をほぼ独学で描き始める。岡本太郎が人選、構成
した 1955 年の第 40 回二科展で特選を受賞し、注目を
集めた。＜神話＞＜民話＞シリーズでは、自由奔放な
想像力が最大限に開花し、確固たる独創的なスタイル
を確立した。1957 年に離婚し、1959 年渡米。渡米後

に画風は一変し、抽象画へと移行するも、1966 年 42 歳の若さで死去。2009 年横須賀美術館で「芥川紗織展」を開催した。



No. 3 memory of sands



No. 4 内なる自然

川田祐子 1962（昭和 37）～

東京都小金井市に生まれる。1989 年まで横須賀で育つ。1986-87 年旧西ドイツに留学。
1988 年女子美術大学芸術学部芸術学科造形学専攻卒業。1991 年横浜国立大学大学院教育学
研究科美術研究修了。1995 年から個展で作品を発表し、2003 年からは KANEKO ART TOKYO
で毎年継続的に発表している。主なグループ展に、2000 年「神奈川アート・アニュアル 2000
明日への作家たち」（神奈川県民ホール・ギャラリー）、2002 年 VOCA2002 展（上野の森美術
館）、2014 年「クインテットー五つ星の作家たち 1」（損保ジャパン東郷青児美術館）など。
2012 年相模原から長野にアトリエを移転。2016 年横須賀美術館で「川田祐子展 千年の翠」
展を開催した。現在、長野市在住。



No. 6 門のイメージ 金

かわばたみつる

川端実 1911(明治44)～2001(平成13)

東京に生まれる。祖父は日本画の大家、川端玉章、父、茂章も日本画家という芸術一家に育つ。東京美術学校油画科で藤島武二に師事。1936年文展鑑査展で《海辺》が選奨となる。戦後は、1951年第1回サンパウロ・ビエンナーレに出品。また日本国際美術展や現代日本美術展に出品し、1958年渡

米。グッゲンハイム国際展で《リズム茶》(横須賀美術館蔵)を出品し、個人表彰名誉賞を受賞。1962年ヴェネチア・ビエンナーレの日本代表として出品。その他数多くの国際展に出品している。1975年神奈川県立近代美術館にて個展開催。1992年、京都国立近代美術館と大原美術館にて、アメリカでの近・新作を中心とした「在米35年川端実展」を開催。2011年横須賀美術館で没後初の回顧展「生誕100年 川端実展」を開催した。

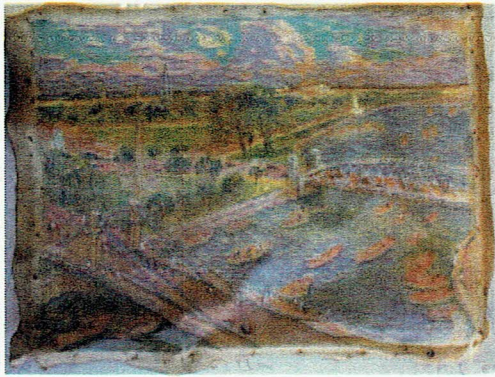


No. 7 二羽の鳥

たかまつしち

高間惣七 1889(明治22)～1974(昭和49)

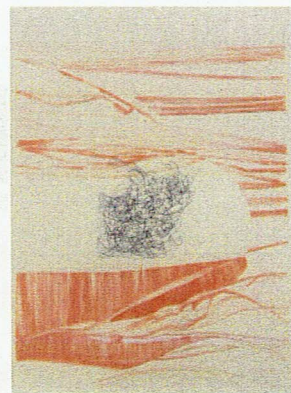
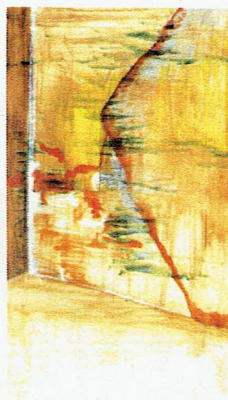
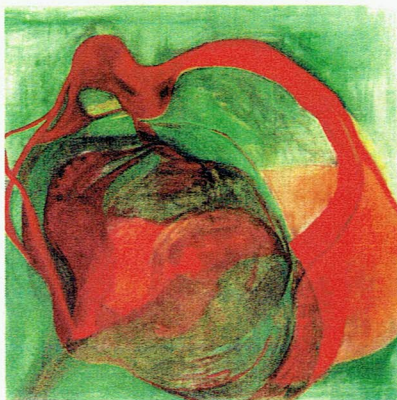
東京に生まれる。中学校に在学中、美術教師に太平洋画会の長尾奎太郎がいた。白馬会洋画研究所に学ぶ。1916(大正5)年東京美術学校西洋画科選科を卒業。在学中の1913年第7回文展に初入選。1918年第12回文展に《夏草》で特選。翌々年から三年連続して特選。1924年牧野虎雄らと槐樹社を結成。1931(昭和6)年槐樹社を解散。翌年熊岡美彦らと東光会を創立するがまもなく退会。1939年主線美術協会を創立。その間官展に出品し、戦後は日展にも出品するが1955年以降は独立美術協会で主要な作品を発表した。1959年第5回日本国際美術展で優秀賞受賞。1964年にはマイアミ近代美術館で個展を開催した。



No. 8 〔シンガポール風景〕

矢崎千代子 1872 (明治 5) ~ 1947 (昭和 22)
横須賀村汐入に生まれる。1887 (明治 20)
年曾山幸彦の画塾に入門し、洋画の手ほど
きを受ける。1894 年黒田清輝、久米桂一郎
の天真道場に入る。1897 年東京美術学校に
入学、黒田清輝に師事し、白馬会にも出品
を重ねた。1905 年臨時博覧会事務局の美術

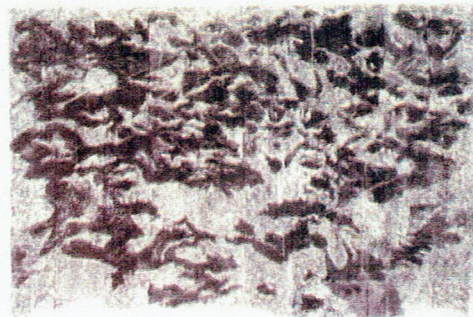
部員として渡米、セントルイス万国博覧会事務局に勤める。その後アメリカからヨーロッ
パへ渡り、1909 年に帰国。生涯、欧米をはじめアジア、アフリカを巡遊した。1927 (昭和
2) 年『矢崎千代子作パステル歴遊画集』を刊行、同年滞外パステル画展覧会を開催。1929
年日本パステル画会を創設し、『パステル画の描き方』を刊行するなど日本におけるパステ
ル画の普及につとめた。光風会や帝展、文展などで作品を発表。1947 年北京で死去。



左より No. 9 Untitled [Works7]、No. 10 Untitled [Works13]、No. 14 Untitled

若林砂絵子 1972 (昭和 47) ~ 2008 (平成 20)

東京に生まれる。1995 年多摩美術大学美術学部卒業。1998 年多摩美術大学大学院美術研究
科修了。2000 年渡仏、パリ国立高等装飾美術学校 (ENSAD) に学ぶ。2004 年学内コンペで
受賞し、パリの新築マンション内にレリーフを制作。2005 年同校卒業。アトリエ・コント
ルポワン・パリで版画を学ぶ。2006 年スペイン、マヨルカ島で滞在制作。2007 年パリ国際
芸術都市のアトリエで制作。2008 年パリ第 1 大学パンテオン・ソルボンヌ校造形芸術卒業。
没後、2010 年「PLATFORM2010 寺田真由美—不在の部屋・若林砂絵子—平面の空間」(練馬
区立美術館)、2011 年「表現する葦 吉田哲也・若林砂絵子」、2016 年「新収蔵コレクショ
ン展 大宮政郎・若林砂絵子」(ともに多摩美術大学大学美術館) が開催された。2016 年横
須賀美術館で「特集 若林砂絵子」を開催した。



左より No. 11 気圏のまつり、No. 12 砂のかたち その人は此処を通りましたか

いそみてるお
磯見輝夫 1941 (昭和 16) ~

鎌倉市に生まれる。1959 (昭和 34) 年横須賀高校を卒業。1966 年東京藝術大学油画科卒業。油彩を中心に水彩やアクリルなど幅広い技法で作品を制作していたが、1971 年東京藝術大学大学院版画科に再入学し、本格的に木版を始めた。1973 年同大学院版画専攻修了。1979 年第 47 回日本版画協会展で協会賞受賞。1978 年頃から杉板を版本として用い、横に並べ継いで大型版画の制作を始める。1984 年現代日本美術の展望展、1989 年リュブリアナ国際版画ビエンナーレ、1990 年現代日本の版画 1990 (渋谷区立松濤美術館)、1992 年「木版画 明治から現代」(練馬区立美術館)、2004 年日本の木版画 100 年展 (名古屋市美術館)、2005 年現代版画の潮流展 (町田市立国際版画美術館) など出品多数。1993 年愛知県立芸術大学助教授となり、2007~2013 年同大学学長をつとめる。2016 年横須賀美術館で「嶋田しづ・磯見輝夫」展を開催した。



No. 33 祇王寺の秋 下絵

いとうしんすい
伊東深水 1898 (明治 31) ~ 1972 (昭和 47)
東京に生まれる。1908 (明治 41) 年 11 歳で東京印刷活版部へ入り、1911 年に意匠部に転じた。この年鏑木清方入門。入門の翌年、巽画会に初入選。1913 (大正 2) 年の巽画会で一等褒状となり、翌年に第 1 回再興院展、1915 年第 9 回文展に出品。1916 年第 3 回再興院展に《乳しぼる家》が入選したが、この頃から大正末年にかけては、専ら新聞雑誌の挿絵、口絵版画等の仕事に携わった。1927 (昭和 2) 年第 8 回帝展で

特選、翌年無鑑査となり、1933 年第 14 回帝展では審査員となった。以来、長年審査員をつとめ、毎年大作を発表。戦後は日展を中心に活躍。1958 年には芸術院会員となった。

